

2020年11月25日
株式会社コプロ・ホールディングス
管理本部 IR 担当

2021年3月期第2四半期決算説明会 質疑応答要旨

2020年11月19日開催の2021年3月期第2四半期決算説明会における質疑応答要旨を開示いたします。なお、質疑応答要旨については、ご理解いただきやすいように表現の変更や加筆・修正を行っています。

Q：上期に計上した一過性要因による費用は下期及び来期も発生するか。

A：営業改革に関するコンサルタント費用は上期で完了しているため、下期以降の発生はなく、今後は社内での取り組みを推進していく。スマートフォンの技術社員への貸与は昨年12月に開始し、現在はほぼ完了している。通話料・使用料等のランニングコストに対してはチャージアップ(1人当たり売上高の増加)に引き続き取り組みトップラインの上昇でカバーしていく。また、基幹システムの刷新については、来期から減価償却費が発生するものの影響は軽微である。

Q：プラント技術者派遣を建設技術者派遣に次ぐ第2の柱と位置づけ強化する理由は何か。

A：プラントで求められるスキルは細かくあるが、工場の建設、改修、修繕に対する施工管理を行うという点においては、建設分野の施行管理と共通する部分が多い。そのため、これまで培ってきた建設の経験を十分に活かすことができるほか、建設に比べ競合も多くないことから、既存の人財の更なる活躍が期待できる分野である。業績面から見ても、プラントは1人当たりの売上高が高い傾向にあることに加え、両分野の親和性の高さから、建設とプラントを分けて採用費を投じる必要がないこともメリットである。

Q：4月に新設した北九州プラント支店はターゲットとしている特定の企業があるのか。

A：北九州から神戸にかけてコンビナートが多いため、九州を中心としたマーケットを押しやるために新設した。

以上